

就労分野の日本語教育フェア

開催経緯と報告

問題意識

外国人材の受け入れが全国的に進む中、共生社会の実現に向け、日本語学習環境の整備は、重要かつ喫緊の課題となっている。
しかしながら、**必要な情報の収集や実践知の共有が容易ではない**状況が続いている。

共有が容易ではない理由

- ・ 制度の移行期である
- ・ 学習者の背景、置かれた環境が多様であり、可変的である。
- ・ 関わるステークホルダーが多様である。
- ・ 情報共有の場が作りにくい（アカデミックな研究発表がしにくい）

解決策の一つとしての取り組み

- ・ステークホルダーが一堂に会する場を作る
- ・ビジネスフェアのような場を作りたい

ビジネス日本語研究会・昭和女子大学 大学院文学研究科言語教育専攻日本語教育学領域 共催
日本語教育センター

就労分野の日本語教育フェア2025 — 最新情報と実践の共有 —

日時:2025年11月29日(土) 13:00~17:00

会場:昭和女子大学 [世田谷キャンパス](#)

形式:対面+一部オンラインのハイブリッド開催

参加費:会員無料

*非会員の方は対面参加1000円、オンライン参加無料



第1部:パネルセッション(13:00~14:45) 《対面・同期オンライン開催》

テーマ：「日本の外国人材雇用 — グローバルな視点から」

2027年に始まる「育成就労制度」により、日本の外国人材受け入れ政策は新たな段階に入ろうとしています。育成就労制度・特定技能制度は、外国人材にとってどのような可能性と課題を含んでいるのでしょうか。また、日本社会はその受け入れをどう支え、共に生きる社会を築いていけるのでしょうか。

本パネルでは、国際関係、送り出し国の事情、教育、現場支援など、各分野の専門家をお招きし、最新の動向や実践的な課題を共有します。外国人材をめぐる日本の今と未来を、多角的な視点から議論します。

- 日本の現状は？ — 多文化共生社会のインフラ整備は進んでいるのか —
万城目 正雄 氏 東海大学 教養学部 人間環境学科 教授
- 日本は「選ばれる国」か？ — ASEANから見た日本の魅力と課題 —
ウォーカー 泉 氏 シンガポール国立大学 准教授／語学教育センター 所長
- 課題にどう取り組むか？ — JP-MIRAIが目指す外国人材共生のプラットフォーム —
宍戸 健一 氏 JP-MIRAI 理事

司会：近藤彩 ビジネス日本語研究会 代表幹事／昭和女子大学大学院文学研究科長・人間文化学部 教授

第2部:展示・発表 (15:00~17:00) 《対面・非同期オンライン開催》

《出展・発表団体 敬称略・50音順》

SJP (就労日本語プロジェクト)

一般財団法人 **海外産業人材育成協会AOTS日本語教育センター**

一般社団法人 **介護の日本語学習支援協会**

株式会社 **カンガルーズ**

株式会社 **KizunaBridge**

独立行政法人 **国際交流基金**

公益社団法人 **国際日本語普及協会**

Cocobridge

一般財団法人 **日本国際協力センター**

JWLプロジェクト (昭和女子大学他共同プロジェクト)

有限会社 **トヤマ・ヤポニカ**

MINORI (インドネシア送り出し機関)

森興産株式会社

株式会社 **link design lab**

株式会社 **ワールドディング**

★オンラインでご参加の皆様には、出展・発表内容をウェブサイト上でご覧いただきます。

《出展・発表個人 敬称略・50音順》

國井久美子 (Bridge & Partner Japan)

栗又由利子 (株式会社きぼう国際外語学院)

世良時子 (上智大学)

黒田史彦 (桜美林大学)、**田中久実** (株式会社

Language Plus One)、**木下直子** (早稲田大学)

高槻美陽 (早稲田大学)、**松田佳子** (大阪大学)、

日野純子 (帝京大学)

平澤栄子 (OKUTAMA+ education)

松尾憲暁 (岐阜大学)、**大澤優** (南山大学)

展示・発表ガイド

日本語要件と必要な学習環境 の中での位置付け

1. 株式会社link design lab
企業との協働による製造業で働く外国人従業員のキャリアにつながる日本語プログラム開発

2. トヤマ・ヤポニカ
地域を相互活用する社会参加のための就労日本語教育

3. 平澤栄子
就労現場から地域へ開く日本語教室 一技能実習生支援と地域連携の実践と課題一

4. 日本国際協力センター
定住者・永住者向け就職支援と育成就労制度施行に向けた教育モデル開発

5. 栗又由利子他
就労に必要な人間関係構築のための日本語能力 一きぼう国際外語学院の実践から一

6. 就労日本語プロジェクト
育成就労100時間プログラム案 一就労者の定着を促す企業、地域との協働の可能性を探る一

7. MINORI
送り出し機関から変える就労日本語教育の未来：Can-do ベースプログラムの実践と課題

21. 國井久美子
外国人を初めて受け入れた中小製造業の「新入社員研修」の実施事例

20. Cocobridge
「特定技能2号評価試験に向けた学習支援～建設分野の日本語を中心に～」の紹介

19. 株式会社カンガルーズ
「特定技能外国人の日本語教育」カリキュラム事例

18. 介護の日本語学習支援協会
外国人介護人材のための介護専門用語学習支援サービス「かいごのご！」

17. 株式会社KizunaBridge
外国人介護人材のポテンシャルを最大限に！

16. 森興産株式会社
留学生支援多言語メディア WA. SA. Bi. (わさび) の紹介

15. 松尾憲暁他
大学職員、キャリア教員、日本語教員の協働による外国人留学生のキャリア支援アプリCONCIEの開発

14. JWLプロジェクト
連携と協働による学びをデザインできる教師の育成

13. 黒田史彦他
外国人材との協働コミュニティを創出するためのパターン・ランゲージ

12. 高槻美陽他
状況から出発する自主教材の開発：ウェブ版日本語ライティング教材「日本語を書きたい！」

11. 国際日本語普及協会
就労分野の対象別日本語教材 一現場での実践力養成するするには一

身分に基づく在留資格

来日

送り出し国の日本語教育機関

育成就労

特定技能1号

特定技能2号

永住

A0からA1へ向上する学習環境

A1からA2へ向上する学習環境

A2からB1へ向上する学習環境

介護

技術・人文・国際

インターン

日本語学校
(留学)
(就労)
(生活)

日本語支援
(企業)
(学校)
(地域)

登録支援機関
監理団体

業界団体

大学・大学院
留学生センター
専門学校

全体

フェアを実施してみても、課題は？

- ・ 制度の移行期である
- ・ 学習者の背景、置かれた環境が多様であり、可変的である。
- ・ 関わるステークホルダーが多様である。
- ・ 情報共有の場が作りにくい（アカデミックな研究発表がしにくい

今後の取り組み

●情報の質と量の向上

- ・企業の社員研修担当者のニーズに応える情報
- ・日本語教師のニーズに応える情報

●ステークホルダー間の連携方法の模索

- ・アーティキュレーションプロジェクト